

第49巻 第1号 予告

特集「国際保健における人材養成」

1. 公衆衛生学校の動向—APACPHと国立公衆衛生院……………林 謙治
2. 発展途上国における公衆衛生従事者の教育研修システム……………藤崎 清道・曾根 智史
3. 国立公衆衛生院が実施するポリオ根絶行政研修……………荒木 國興・西尾 治
4. 国際機関や先進諸国が行なう発展途上国の公衆衛生人材養成……………兵井 伸行
5. 国立公衆衛生院の実施する公衆衛生行政管理コース……………兵井 伸行
6. Issues in Public Health Education ……………Arie Rotem Professor and Head
7. WHOのSuper Course ……………玉城 英彦
8. 地域の公衆衛生人材養成の取り組み—ネパールの例……………神馬 征峰
9. HIV/AIDS分野における人材養成の国際的な課題 ……………清水美登里
10. 結核における人材養成—結核研究所の取り組み……………下内 昭
11. 地域保健医療従事者の再教育に関する調査—ヴェトナムの例……………角井 信弘

編集後記

インフルエンザの流行は毎年立冬の頃から始まり桜の花が咲くと終息する。なぜインフルエンザは毎年流行するのか、なぜ冬に流行するのか。

インフルエンザで毎年約1,000名が死亡し、インフルエンザの流行に伴い、他の病気の死亡率が上がる「超過死亡」は1万人程度とされているがその実態はいかに。

インフルエンザのハイリスク者である高齢者、小児における病気の実態と対策は。

インフルエンザの予防あるいは症状の軽減のためのワクチンは今はどうなっているのか。

こんな疑問に本院の衛生微生物学部中島節子博士がインフルエンザの特集（1. インフルエンザの流行と抗原変異 2. 季節とインフルエンザの流行 3. インフルエンザによる超過死亡 4. 小児とインフルエンザ 5. 高齢者とインフルエンザ 6. インフルエンザワクチンの評価と適用）を組んで下さり科学的に答えて下さいました。

汎流行事には国民の25%すなわち日本では約3,000万人が罹患し、超過死亡は4万人と推定されるインフルエンザから、異なる研究の成果で開放される日が来ますことを。

山崎 省二（衛生獣医学部）